

定期的に歯科健診を受けている人と、そうでない人では、高齢になった時の歯の本数に大きな差が生じる。全国の80歳の残存歯数の平均が7本に対し、長期に健診を受けていた人は23本。

長期間の歯科定期健診の受診による歯の寿命の延伸について

(財)ライオン歯科衛生研究所 石川正夫

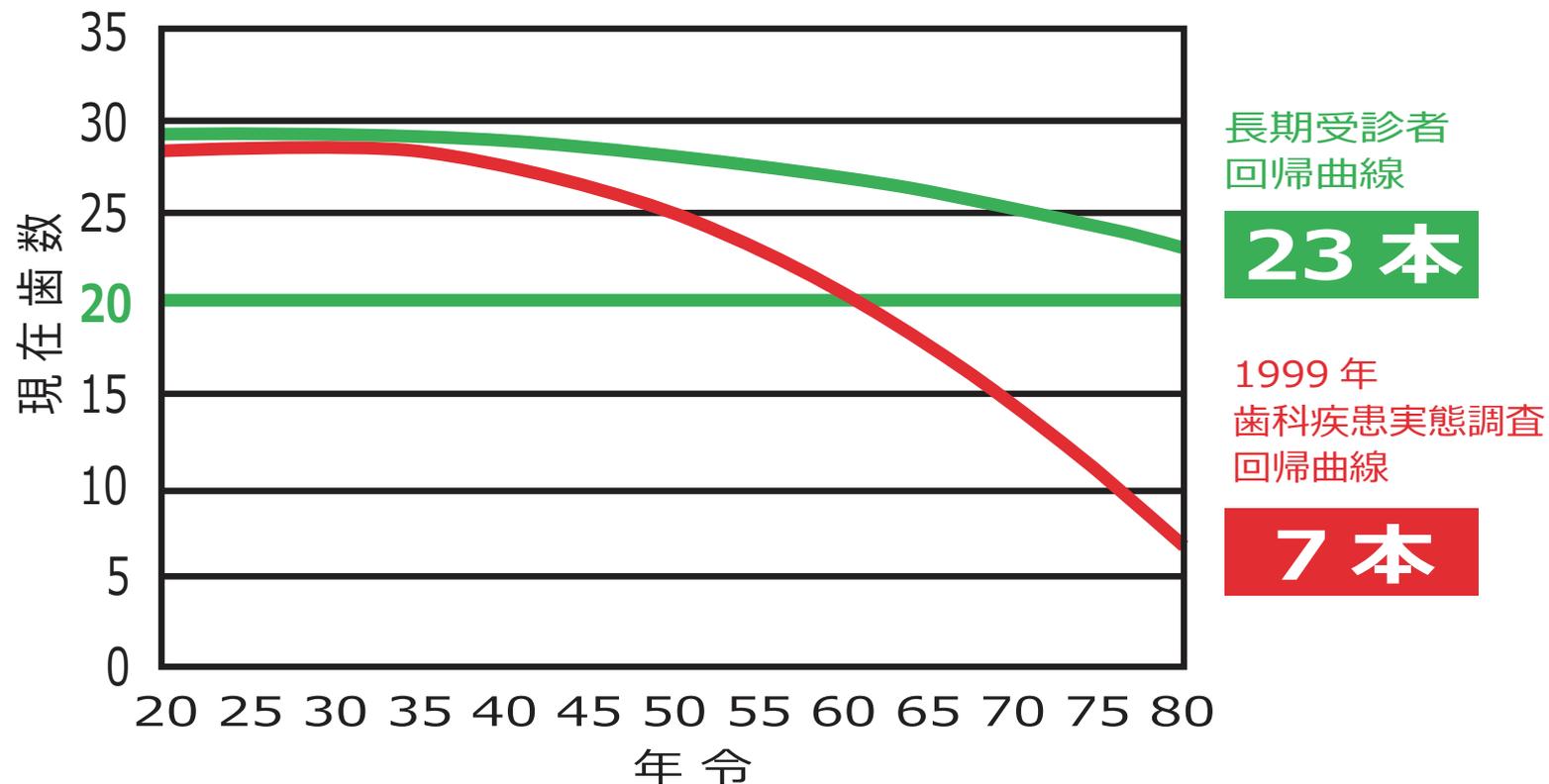
出典：平成15年度8020公募研究事業研究報告書, 35-40, 2004

(財)ライオン歯科衛生研究所の大阪予防歯科ステーションにおいて、定期健診の受診期間が15年以上25年未満の20歳以上の受診者106名の各年代の平均年齢、平均年間受診回数、平均受診期間、平均現在歯数と調査期間に行われた歯科疾患実態調査報告(1975年、1981年、1987年、1993年、1999年)の各年代の現在歯数を比較・検討したところ、長期に渡る定期健診の全受診者について、平均現在歯数は全年代で20本以上を保持しているという結果が出た。

長期に渡る継続的な定期健診は口腔保健に関する意識や関心を向上

歯科健診を長期持続すると歯の寿命は伸びる

長期受診者の現在歯数と歯科疾患実態調査の変化



(財)ライオン歯科衛生研究所の研究

「長期間の歯科定期健診の受診による歯の寿命の伸展について」より引用